

第12回 新任教員研修セミナー閉会挨拶 館長 鈴木康司

世界中を巻き込んでいるコロナ禍のため、当セミナーは昨年に引き続き今回もまた残念ながらオンラインによる研修とならざるを得ませんでした。運営委員長の菊池滋夫先生をはじめ、委員の諏訪先生、福山先生、藤井先生、それに快く講師を引き受けてくださいました諸先生のお力で充実した内容になりましたことを、主催者として深く感謝いたします。また共催者としてご協力賜った公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩にも厚く御礼申し上げます。

さて菊池先生も募集要項で明言されておられるように、コロナ禍の元、最初のうちはオンライン授業が主流であったものが最近では徐々に対面授業も再開されており、「遠隔授業では容易に再現できない豊かなコミュニケーションが、学生たちの学びと成長に不可欠であることも再認識されるように」なっております。

かつて奈良の有名な古刹、薬師寺の管長さんが日本私立大学連盟での講演で教育というものは人と人が向き合っこそ始まるものであろうと述べられたように、オンライン授業では知識の受け渡しはできても人格と人格のふれあいはなかなか難しいものでありましよう。もちろん、大学は知識伝達の間でもありますがその傍ら、得た知

識を主体的に活用して自らの問題意識を高めるための道具とする、そしてさらに高みを目指して己の力を加え新しい道に踏みこむ、それが本当のアクティブラーニングではないでしょうか。

そのような意味を考えてみますと、二日目の「参加型社会へ向けた教育とは何か」で田原先生がご紹介くださった、オンライン授業で流した知識だけでは学生たちが離れてしまいがちだが、間に雑談の時間を設けてみるとそこでは活発な質問や意見が交わされて互いに親近感や疑問を持ったのは自分だけではないと分かった学生たちに脱落者はゼロだったというお話はともすれば孤立感を持ち、受け身になりがちな学生たちにどうアクションを起こさせるかという点で極めて効果的な方法ではないかと思います。かつて私も現役の時、学生たちのモチベーションを高めるにはどうすべきか試行錯誤を繰り返した経験がありますが、あるレベル以上の大学で成功した方法が他の大学では無理であったりして結局全体としてはうまくゆきませんでした。

それだけにこれからいろいろな学生に接して経験を積んで行かれる皆さんは、ご自分の抱負や希望をお持ちと同時に不安もおありかと存じます。しかし、この三日間で菊池先生をはじめ優れた講師の

方々によって今後の教員生活に生かすべき数々のヒントを得られた  
に違いありません。参加者の皆さんの健闘を心から願って私のご挨拶  
といたします。